

松井茂久『警官陶冶篇』研究史抄（五訂稿）
— 本 HP 掲載「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』」検討資料—
（令和 4（2022）年 8 月 3 日（水）現在）

（補正経緯）

・本稿は、本 HP に別途掲載した「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』（増訂三版、明治 25（1892）年 2 月 18 日刊）」（下記参照）検討上必要と思われる関係基本文献について、平成 19（2007）年 8 月現在で一、二言及したものである。

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui001.pdf>〉

（平成 19（2007）年 8 月 14 日初稿作成）

・上記に一、二補正を加えた。

（HP 初載：平成 19（2007）年 12 月 8 日改訂稿作成）

・更に、一件追記した。

（平成 20（2008）年 3 月 14 日再訂稿作成）

・上記に一、二補正を加えた。

（平成 24（2012）年 8 月 27 日三訂稿作成）

・『警察協会雑誌目次集＝警察政策百年の論述＝』（警察政策学会資料・別刷、警察政策学会・公益財団法人警察協会、平成 25 年 12 月刊）刊行を機に、上記に一、二補正を加えた。

〈[file:///C:/Users/tyjp/Downloads/202004101745189922%20\(4\).pdf](file:///C:/Users/tyjp/Downloads/202004101745189922%20(4).pdf)〉

（平成 26（2014）年 6 月 29 日（日）四訂稿作成）

・レイアウトを全面的に変更するとともに、一部補正、追加した。

（令和 4（2022）年 8 月 3 日（水）五訂稿作成）

松井茂久（1862～1890）『警官陶冶篇』（初版：福岡県警察本部、明治 22 年 11 月 18 日刊、増訂再版：福岡市・松井マン、明治 24 年 7 月 18 日刊、増訂三版：福岡市・林磊落堂、明治 25 年 2 月 18 日刊）を取り上げたものとしては、例えば、戦前には、『福岡県 警察官殉職誌』（財警察協会福岡支部、大正 15 年 5 月 28 日刊）、横溝光暉¹（1897～1985）「『警官陶冶編』を読む」『警察協会雑誌』第 318 号（昭和 2 年 2 月 25 日刊、同稿は増訂三版の紹介）等があったが、戦後、横溝光暉氏は、大著『行政道の研究』（第一法規出版、昭和 53 年 11 月 15 日刊）で、戦前の官吏の修養書として、『警官陶冶篇』と大森鍾一²（1856～1927）『直興遺篋抄』（内務大臣官房文書課編纂、警察精神社、昭和 10 年 11 月 21 日刊）³の二書を高く評価されている（473、474 頁）。

この他、『警察顕彰録』（財福岡県警友会、昭和 28 年 6 月 25 日刊。その後も同種の顕彰

¹ 〈<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A8%AA%E6%BA%9D%E5%85%89%E6%9A%89>〉（平成 24 年 8 月 27 日追加）

² 〈<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E6%A3%AE%E9%8D%BE%E4%B8%80>〉（平成 24 年 8 月 27 日追加）

³ 本 HP 別稿「大森鍾一『直興遺篋抄』—「長男仕官に就き与へたる訓戒の書」—」（平成 24 年 8 月 27 日追加）〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/omori001.pdf>〉

録が出ているがここでは省略。) 17、18 頁、『福岡県警察史 明治大正編』(福岡県警察本部、昭和 53 年 3 月 31 日刊) 831 頁等戦後の福岡県警察資料も、松井茂久及び『警官陶冶篇』に触れており、参考になる。

その後、『警官陶冶篇』(初版)については、『季刊現代警察』第 36 号(啓正社、昭和 59 年 7 月 10 日刊)、同第 37 号(昭和 59 年 12 月 10 日刊)に、同誌編集部訳「現代語訳 警官陶冶篇」が掲載された。なお、これは、後に、『季刊現代警察』別冊合本五『部下を育てる幹部のためのヒント集』(平成元年 10 月 10 日刊)にも再録されている。同時期、渡辺忠威⁴(1926～1987)氏の「『警官陶冶篇』を読む」『警察学論集』第 38 巻第 5 号(昭和 60 年 5 月 10 日刊)が出されているが、両者は、発表時期は近いものの、相互には関係はないようである。

これらにより、松井茂久本人及び『警官陶冶篇』についてはかなりのことが判明していたが、平成 9 (1997) 年になって、福岡県の梅崎禎一氏が古書市場で松井茂久の遺稿を掘り出し、その一部を、「埋もれた明治の志一福岡県警部松井茂久の生涯」『紫水』第 18 号(福岡市・紫水会、平成 9 年 7 月 1 日刊)〈<http://www.lib.pref.fukuoka.jp/>〉として公表された。この松井遺稿は、画期的な発見といえるが、現在は福岡大学図書館に収蔵されており、同館の蔵書検索ネット〈<http://nlopac.lib.fukuoka-u.ac.jp/>〉で概要を知り得るものの、その検討はなお将来に待たれる。

最近では、『警官陶冶篇』検討については、修養論研究会「松井茂久『警官陶冶篇』の再検討一明治中葉の警察官修養書一(第 1 回～第 15 回・完)」『ヴァリエント』(現在は『月刊警察』に改称。東京法令出版刊、平成 18 年 1 月号(通巻第 268 号)～平成 19 年 3 月号(通巻第 282 号)年)及び上記「現代語訳 警官陶冶篇」の再々録(『季刊現代警察』(全 3 回)、(上): 同誌第 116 号、平成 19 年 4 月 20 日刊、(中): 同誌第 117 号、平成 19 年 7 月 20 日刊、(下): 同誌第 118 号、平成 19 年 10 月 20 日刊。同号末尾に編集部「再録後記」が掲載され、『警官陶冶篇』関係文献の記載がある。)等がある。

これらに加え、なによりもまず原文の復刻が望まれていたため、去る平成 18 (2006) 年 3 月 7 日に、『警官陶冶篇』増訂三版(福岡市・林磊落堂、明治 25 年 2 月 18 日刊)の PDF 版を本 HP 上に紹介した〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui001.pdf>〉が、同じ頃(平成 18 年 4 月 4 日か〈http://kindai.ndl.go.jp/information_18.html〉(平成 24 年 8 月 27 日現在では削除か。))、国立国会図書館電子図書館近代デジタルライブラリー〈<http://kindai.ndl.go.jp/>〉に、同図書館所蔵の同書初版(福岡県警察本部、明治 22 年 11 月 18 日刊)〈<http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/785229>〉及び増訂再版(福岡市・松井マン、明治 24 年 7 月 18 日刊)〈<http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/785230>〉の PDF 版が掲載された。なお、上記同書増訂三版については、同図書館では未所蔵のため、近代デジタルライブラリーには収録されていないようである。

これらにより、『警官陶冶篇』の主要な三つの版(現在知り得る最終版は福岡市・書林博文社、大正元年 12 月 15 日刊の第八版か。)は、今ではすべてネットで容易に閲覧、複写することができるようになったわけであり、本文自体の比較検討も望まれる。

⁴ 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakahara001.pdf>〉参照。(平成 24 年 8 月 27 日追加)

いずれにせよ、松井茂久のパーソナルヒストリー及び『警官陶冶篇』については、まだまだ未解明のことが多いこともあり、今後の研究が期待される。

(平成 19 (2007) 年 8 月 14 日稿、同 19 年 12 月 8 日補正、同 24 年 8 月 27 日、同 26 年 6 月 29 日、令和 4 (2022) 年 8 月 3 日各補正)

(追記 1)

・その後、上記梅崎禎一氏は、『福陵書房』第 25 号(福岡県筑紫野市、古書目録、奥付なし。冒頭に「平成 20 年新春吉日付」の同氏「御挨拶」文あり。)巻末所載の「古書余滴」欄に、「独学のすすめ—混迷と狂騒の世に捧げる—」を執筆されているが、その 2~5 頁中で、同氏がかつて入手された松井茂久の遺稿を基に、松井及び『警官陶冶篇』について再説されておられる。同氏前掲「埋もれた明治の志—福岡県警部松井茂久の生涯」『紫水』第 18 号(福岡市・紫水会、平成 9 年 7 月 1 日刊)参照。

(平成 20 (2008) 年 3 月 14 日追加)

(追記 2)

・平成 25 (2013) 年末に警察政策学会警察史研究部会・公益財団法人警察協会編『警察協会雑誌目次集—警察政策百年の論述—』(警察政策学会資料・別刷、警察政策学会・公益財団法人警察協会、平成 25 年 12 月刊)が刊行された。なお、別に公益財団法人警察協会 HP <<http://www.keisatukyokai.or.jp/>> に HP 用「目次集」<<http://www.keisatukyokai.or.jp/index.php?id=145>> がアップされた。

次いで、平成 26 (2014) 年 1 月 21 日(火)より「図書館向けデジタル化資料送信サービス」(図書館送信)が開始され、この結果『警察協会雑誌』のデジタル化資料(第 1 号~第 520 号)も最寄りの公共図書館等(国立国会図書館の承認を受けた図書館に限る。)<http://www.ndl.go.jp/jp/library/service_digi/> で利用できるようになった⁵。

これらを踏まえ検索した結果、明治 30 年代末に『警察協会雑誌』に下記の紹介文が掲載されていることが判明したので、記載しておく。

警察監獄学校卒業生 長野県警部細野権蔵「警官陶冶篇を読む」『警察協会雑誌』第 74 号(明治 39 (1906) 年 7 月 15 日刊) 30~33 頁

(平成 26 年 6 月 29 日追加)

⁵ その後のことについては下記参照(令和 4 (2022) 年 8 月 3 日追加)

・国立国会図書館デジタルコレクション <<https://dl.ndl.go.jp/>>

・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス(個人送信)(令和 4 (2022) 年 5 月 19 日開始)

<https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html>

・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー

<<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>>

【附録】明治警察史コーナーHP 項目一覧（抄）（令和 4（2022）年 8 月 3 日追加）

・「法制史学者著作目録選（WEB 版）明治警察史コーナー」参照。（（参考）として平成 24 年 8 月 27 日追加）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉

・「松井茂久『警官陶冶篇』研究史抄一本 HP 収載「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』検討資料」（本稿）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui002.pdf>〉

・「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』（増訂三版、明治 25（1892）年 2 月 18 日刊）」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui001.pdf>〉

・「大森鍾一『直興遺篋抄』—「長男仕官に就き与へたる訓戒の書」—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/omori001.pdf>〉

（了）